

● 取組事例詳細

企業／団体名称	農業生産法人 どうし食と農の環
主要業種	食品関連その他

公開日：2011年03月22日

「協働の着眼点」に照らした取組内容（「ベーシック16」）

1 お客様を基点とする企業姿勢の明確化

自社ブランドが、お客様のニーズに合致しているかを第三者機関に指導助言を求め、従業員の意識を高める。

2 コンプライアンスの徹底

法令、基準改正や商品PR時に、役員が行政機関等に確認し社員全員に周知する。

社内に関するコミュニケーション

3 安全かつ適切な食品の提供をするための体制整備

原材料を自社で生産保管し、保管庫は、二重にロックされ、特定の社員と役員で管理し、加工場には、前室を設け着替え消毒した社員だけが入室できるようにしている。

作業開始前に機械器具の消毒と水質検査を実施している。

4 調達における取組

自社生産以外の農産物を一部使用する時は、役員自ら農産物の生産者、生産場所の確認をした場合のみの使用する。

村内産、県内産、国内産で生産記録等を提出させ、調達先への生産支援、指導も行う。

5 製造における取組（製造）

保管・流通における取組（卸売）

調理・加工における取組（小売）

清掃、消毒の徹底、加工作業の簡素化、自動化による安全衛生、異物混入を防止する。

6 販売における取組

加工量、販売量を調整し持ち越し在庫をなくす。

商品の物語、コンセプトをしっかりお客様に伝える。

取引先に関するコミュニケーション

7 持続性のある関係のための体制整備

市場ニーズに合った価格、安全安心を取引先とも意見交換を定期的に行っている。

8 取引先との公正な取引

良質な商品を安定した価格で提供できるよう、市場価格を参考にお互いの利益を考え商品価格を考えている。

9 取引先との情報共有、協働の取組

市場価格であるとか、ニーズをお互いに伝え取引商品以外の情報も共有し成長できる関係作りをしている。

お客様に関するコミュニケーション

10 お客様とのコミュニケーションのための体制整備

販売員がいちばんお客様に接しているので、特にお客様の声を毎日メモに書き役員に伝え、全社員にも伝える問い合わせ等の対応は、早急にてはいする。

11 お客様からの情報の収集、対応、管理

販売店の店員のメモとホームページへのお客様の声など定期社内会議等で話し合う。

12 お客様への情報提供

ホームページで商品を紹介したり、各種イベントに積極的に参加し商品を広く知ってもらう、また、生産年・生産量・品種等もできる限りつたえる。

13 食育の推進

商品になる穀物の歴史、栄養価等多くの機会を通して伝え、学校給食への提供、地域栄養推進委員会との連携をはかる。

緊急時に関するコミュニケーション

14 緊急時を想定した自社体制の整備

緊急時は、社員全員で対処し連絡体制を整え社外にも緊急時対応をいらいしている。

15 緊急時の自社と取引先の協力体制の整備

取引先とは、緊急時にそなえ連絡体制を創り安定した商品作りの実現に向けて連絡を密にし、情報を共有する。

16 緊急時のお客様とのコミュニケーション体制の整備

取引先とは、緊急時にそなえ連絡体制を創り安定した商品作りの実現に向けて連絡を密にし、情報を共有する。